

令和2年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて・・・	P 2
作文の部	
最優秀賞・・・・・・・・・・	P 3
優秀賞・・・・・・・・・・	P 4～8
図画の部・・・・・・・・・・	P 9



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

横手市農業委員会

当会では、多様な農業情勢に対応するため、二つの委員会を設置しています。その中の、広報・食農推進委員会では、食育教育に必要な情報提供活動や、地域における実践活動を推進しており、その一環として、教育委員会と連携し、横手食育見聞録作文・図画コンクール」を平成十八年から継続して実施しています。

今回で十五回目となるこのコンクールは、小学生が自ら「食」について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現することが、心身の発育上、大切であるとともに、ひいては今後の農業振興に役立てるためとしております。

また、総合学習等に基づき、何らかの農業に関する学習を実践している小学校五年生を対象に「自らの農業体験」や「おだん、

農業について感じていること」を作文、図画にしてください、優秀作品については表彰するとともに、広報誌「横手市農業委員会だより」への掲載や今年度、横手市で開催された「秋田県種苗交換会」で展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で二一〇点、図画の部で四〇六点あり、十二名の審査員による審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点が決定したところです。

今回の作品も選考段階で甲乙つけがたい内容であったとともに、作品を通じて、小学生の視点から見た農業に対する思いを、ぜひともご覧いただければと思います。

この作品を通じて今一度食について考え、家庭における規則正しい食生活が大切であることを考えていただく機会として、この作品集が何かのお役にたてれば幸いです。

横手食育見聞録作文コンクール

最優秀賞

じいちゃんの愛情

横手北小学校 高橋

ともか
朋楓

じいちゃんの作ったネギはあまくておいしい。人参もこく
てうまい。毎日食べているお米もおいしい。うちは農家だ。
野菜はいつも倉庫にある。旬な物ほとんどの畑でとって食
べる。夏の朝にレタスとトマトときゅうりをとってくるのが
私の役目だ。今年は、弟がオクラを大事に育てていた。私は、
食べるせん門なので、こんなに近くにいっても、じいちゃんの大
変さを今まで知らなかった。学校で農業の勉強をして、家
で見たことはあっても初めて知ることばかりだった。

じいちゃんの朝は早く、軽トラの音で私は目が覚める。休
みもほとんどない。いつも田んぼや畑で真っ黒になっている。
大変じゃない?」どこかに行きたくない?」私はいつも
聞くけれど、「いいの、いいの」とじいちゃんは言う。もし
も、じいちゃんが畑を休んだら?

無口なじいちゃんだけど、笑う時がある。私が面白い事
をした時も笑うけれど、いっしょにご飯を食べる時はなんだか

うれしそうだ。今の季節は、白菜や大根がたっぷり入ったな
べが好きだ。やさしい笑顔で「いっぱい食べれな」と言われ
ると、苦しくてもついつい食べてしまう。ばあちゃんの作っ
た料理もおいしいので、コロナで学校が休みの間、私と弟は
どうやら食べ過ぎたようであっぴり増量した。

うちのご飯はじいちゃんのおかげだ。スーパーで買うこと
だってできるけれど、売っている作物もきつとどこかでだれ
かが一生けんめい作った物だ。時間をかけて、愛情かけて、
知えに体力にたくさんのパワーで育ててくれたにちがいな
い。みんな、ありがとう。そして、今日のご飯も楽しみだ。



優秀賞

農業は、ぼくたちの暮らしに必要なだ！

吉田小学校 藤井 悠人 はると

ぼくは、農業や食べ物は、ぼくたちの生活の中に欠かせないものだと思います。

ぼくは、秋ごろに稲刈り体験をしました。稲を刈る時の、かまの使い方がむずかしかったです。そこから、農家の人たちのたいへんさを知ることができました。ぼくの家でも、お米を作っています。春ごろから、秋までの長い期間にかけて、おいしいお米を作るために、色々がんばっていました。例えば、田んぼの水の管理を、朝から夜にかけて一日中、こまめにチェックしたり、休日でも休むことなくやっていました。ぼくのお父さん、お母さんに、なんで、お米を毎日、管理しているの。」と聞いてみたら、日本の、食生活のためだよ。」と、答えてくれました。ぼくは、このことから、農家さんがいないと、日本の食生活にいきようがでると思いました。だから、農家さんは、ぼくたちの生活の中に欠かせないと思います。

現在の日本は、少子高齢化が進んでいます。そのため、農業を継ぐ若者が減ってきています。これは、未来の農業にとって、大変なことだと思います。農家がいないと、ぼくた

ちの暮らしの中に、生きのびるための食べ物なくなってしまうと思います。そうなると外国からの輸入に頼ってしまうので、安心して、安全な物を食べるということがむずかしくなると思います。このことをなくすためには農業を身近な生活にとり入れていくことが大切だと思います。その県の特産品を作っていくことは、地産地消にもつながるし、とってもいいことだと思います。

ぼくは、農業があつての食べ物だと思うので、食べ物を大切にしたい」と、改めて思いました。また、お米や野菜、お肉などは、農家が苦勞して作っているの、残さず食べた



優秀賞

祖父が教えてくれたこと

醍醐小学校 国安 陽咲^{ひさき}

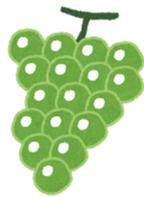
私の家では祖父が農業をしています。私は毎年、稲の苗を作るための種まきをしたり、田植えの手伝いをしたり、りんごの枝拾いを手伝ったりしています。

手伝いを通して、農業は大変な仕事だと思いました。一番大変だと思うのは気候です。春はまだ雪が残っていて、冷たい風が吹く中、農作業をしなければなりません。夏は暑い中、農作業をしなければなりません。秋にかけては台風が来て、強い雨と強風で農作物が被害にあってしまうかもしれません。また、とつ然ひょうなどが降ったら、傷ついた農作物が売り物にならなくなってしまいかもしれません。それでもがんばって農業をしている人達は、本当にすごいと思います。私は祖父を尊敬しています。祖父はチャレンジャーで、今年の夏には「シャインマスカットを作ろう」と言って、家のりんご畑を減らして、シャインマスカットの苗を植えています。私はそんな祖父がうらやましいです。しゅみのように楽しみながらもしっかりと仕事をしてる姿を見て、「こんな風に仕事をしたい」と心から思います。生き生きと農業をしている祖父は、私のあこがれであり理想です。

私の家では家庭菜園もしています。ナスやトマト、ピーマンなどを育てて食べています。たとえ農業を仕事にできなかったとしても、この家庭菜園は続けていきたいと思っています。

私の将来のゆめは、農家になることです。祖父がずっと元気でいて、私が農業をする時に農作業を教えてほしいです。祖父は何度も何度も大変な目にあいながらもずっと農業を続けてきました。

そんな祖父は昔、新しいりんごに私の名前を入れてくれました。少しはずかしかったけれど、とてもうれしかったことを覚えています。祖父は私に、生き生きと挑戦する農業を間近で見せてくれました。だから、私は農家になりたいです。



優秀賞

感謝する」ということ

醍醐小学校 阿部 愛衣留 あいる

私の家は、農家ではありません。でも、学校でりんごやさつまいも、米などたくさんさんの農業を体験して、食べ物に感謝する心が生まれました。

今年体験した米作りは、地域の太庭さんにお世話になりながら、無事「げんき米」を収かくすることができました。この経験をを通して、米作りの大変さや面白さがわかりました。稲刈りは、かまを使うのがこわかったけれど、その体験が思い出になりました。今年だけでなく、これまでもたくさんさんの体験を通して、農業を知ることができました。毎日食べている食について、作ってくれた人に感謝することが大切だと気が付きました。

家でも学校でも外でも食べる食べ物。でも、ただ好きなかけ食べて終わってはいけなないと考えています。「感謝する」ということを忘れてはいけません。その他にも好ききらいをしないこと、食の問題を知ること必要だと思います。そうした上で食べることで、問題の深く化を防げるかもしれません。家族で食べるご飯、みんなで食べるご飯、急ぎながら食べるご飯。どんな時も「感謝する」ことが大事です。

当たり前にご飯を食べられない人も世界にはたくさんいます。当たり前にご飯を食べている人が忘れている大切なことが、たくさんあると思うのです。私は、この状況を変えていかなければいけないと思っています。

このように、私の体験した農業のこと、私が考えた食べることが当たり前な人にこそ必要なことを通して、「感謝する」「品ロス」などの問題も解決しなければならぬと思います。これらは、食事をする人達全員で考えていかなければならぬことだと思います。分かっているつもりが本当は分かっているということに気付いていきたいなと思いました。



優秀賞

ぼくとアスパラ

雄物川小学校 佐藤 迅^{じん}

ぼくの家では、おじいちゃんとおばあちゃんがアスパラの収穫、出荷をしています。収穫の時期になると、とれたてのアスパラがテーブルにならびます。小さなころは、よく食べていたアスパラだったけれど、大きくなるにつれてあまり好きではなくなっていました。でも去年の夏、アスパラの成長を研究したことでまたアスパラを好きになりました。

去年の夏休み、アスパラは一日でどのくらい成長するのか？」を調べました。朝、夕方、そして次の日、同じアスパラなのに7〜8センチメートルぐんと伸びていて、びっくりしました。一本一本のアスパラが「生けん命伸びているんだ」と思ったら、なんだかわいく見えてきました。

そしてアスパラを好きになった理由がもう一つあります。それはアスパラの収穫を手伝ったことです。ぼくの家のアスパラは外の畑とハウスで育てています。アスパラは気温が高くて、お日様にたくさん当たるとよく育ちます。だから収穫をする時はとても暑いです。ぼくはお母さんといっしょにアスパラをハサミでもぎました。おばあちゃんは、どんどんアスパラをもぎます。ぼくとお母さんが一本もいでいる間に三

本くらい次々ともいでいきます。

ゆっくりしていると、アスパラがどんどん伸びてしまっんだよ。でも手伝ってくれて、本当に助かる。ありがとう。」と、おばあちゃんが言うてくれました。そして、おばあちゃんにはアスパラ畑を何周もして、アスパラをもいでいました。アスパラがぐんぐん伸びる様子、収穫をする大変さを知り、アスパラを大切においしく食べようという気持ちになりました。また、他の食べ物がどんな成長をするのかや、がんばってくれている人のことを考えながら食事をするきっかけにもなりました。



優秀賞

お米に込める想い

横手北小学校 秩父 実築 みつき

私は競泳をしています。毎日三千メートルは泳いでいます。練習前にはおにぎりを、終わった後にはご飯を食べています。私のエネルギーはご飯によって作られているようなものです。それどころか私の筋肉や骨はもしかしたらお米で出来ているのかもしれない。私はご飯を残さず食べています。色々なおかずと一緒に食べるのが楽しみです。

去年、私は総合の学習で米作りの勉強をしました。田植えと稲刈りをする機会もありました。実際に自分の手で腰を曲げて苗を植えたり、稲を刈り取ったりすることはとても大変でした。普段、食べているお米がこのような手間をかけて育てられていたとは思ってもみませんでした。種もみから苗が育てられ、田植えをして暑い夏を過ごし、稲刈りをしてお米が出来上がります。それ以外にも色々なことを調べてお米に関する知識を広げました。私達消費者が安心安全にお米を食べられるようにアイガモ農法や無農薬農法などの作り方をしている農家の方々もいてとても驚きました。また、昔は田植え機やトラクター、コンバインなどの機械は当然なく、人

間の手でお米作りをしていたそうです。現在のお米作りでも大変だというのに、昔の人はどれほど苦勞をしていたんだろうと思いました。天候や農家の方の頑張り、そして料理してくれる家族の愛情など様々なことが積み重ねられて私は美味しいお米を食べることが出来るんだと実感しました。

「米」という漢字は八十八という文字から成り立っているそうです。苗を育て、収穫するまでに八十八回の手間をかけることから来ているそうです。お米の勉強をして私はその由来を深く理解しました。日本の四季と農家の方々の丁寧な仕事により、大切に育てられたお米の美味しさが引き出されるのだと思います。これからも私は大好きなお米一粒一粒を大切にしていきたいと思っています。



第15回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品

【最優秀賞】旭小学校5年 藤井 ^{あやね}文音さん
「みんなで代かき」



【優秀賞】十文字第二小学校5年 鈴木 ^{なな}愛那さん
「思い出いっぱい金色の稲」



【優秀賞】横手南小学校5年 柴田 ^{なお}夏碧さん
「えだまめ取り」



【優秀賞】山内小学校5年 高橋 ^{かりな}香里奈さん
「頑張った野菜の収穫」



【優秀賞】吉田小学校5年 長澤 優奈さん
「たくさんの野菜に感謝の気持ち」



【優秀賞】横手北小学校5年 照井 ^{もも}萌望さん
「一生けん命やったいねかり」

